

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-3 農林水産業の担い手の確保・育成
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 細馬 康二	電話番号	0852-22-5311
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	水産業融資対策事業		
目的	(1) 対象	漁業者等	
	(2) 意図	漁業経営の安定を図る	
事業概要	漁業経営の近代化、改善を図る漁業近代化資金制度等の活用と、漁業を継続しようとする意欲のある漁業者に対する支援措置としての長期低利の設備資金制度等の一層の有効利用を図りつつ、漁業経営の安定・向上を目指す。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	新規融資件数	目標値	30.00	30.00	
	式・定義	新規融資件数	実績値	23.00	27.00	25.00	26.00	
			達成率	90.00	83.30	86.70		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
								式・定義
	式・定義	新規融資件数	実績値	0.00	0.00	0.00		
			達成率	0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,070,329	962,619
うち一般財源 (千円)	9,449	8,874

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

漁業経営の維持・安定には十分貢献しているが、燃油価格や資材価格の高騰による漁労収入に占める漁労支出の増加、魚離れ等による魚価の低迷により漁業者の設備投資意欲は大きく低下し、近代化資金、改善資金の新規利用は低下している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

漁業経営は厳しい状況にあり、運転資金の確保が経営継続に大きな影響を与えている。また、設備投資を行う漁業者（経営体）にとっても有利な制度資金の存在は大きい。本事業を行う漁業者（経営体）にとっては、金利負担の軽減がなされ、金融機関も融資が行いやすい環境を作り出していることで、経営の維持安定に貢献している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
経営基盤が弱く、資金力に乏しい漁業者（経営体）は設備投資等の経営改善への取組が困難。
- ②困っている状況が発生している「原因」
燃油価格や資材価格の高騰による漁労収入に占める漁労支出の増加、魚離れ等による魚価の低迷により、設備投資意欲が低下している。
- ③原因を解消するための「課題」
漁協や出先事務所とも連携し、資金制度のニーズを把握しながら、制度の周知等、利用の促進を図ることが必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

漁業者（経営体）の設備資金、運転資金の需要に応じた適切な融資対策事業を展開する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）